

《大学文書館1階・沿革展示室》第二期展示

佐藤昌介——北大の牽引者



展示の概要

札幌農学校第1期生で、北大初代総長となった佐藤昌介（1856-1939年）は、「北大の父」と称されます。140年に及ぶ北海道大学の歴史にあって、W.S.クラークと並ぶ重要な人物と言えます。学生として、教員として、研究者として、学校・大学経営者として、佐藤昌介が北大で歩んだ60年間は、そのまま、北大が最も旺盛で、特徴豊かな拡充を見せた時代でした。

本展示では、佐藤昌介という人物を通じて、北海道大学の歴史の前半期を紹介します。

展示の構成・内容

I. 札幌農学校教頭 W.S.クラークと出会い

札幌農学校教頭に就任したクラークは開校式演説で入学生に”Lofty Ambition”（高邁な志）という語を用いて向上心に満ちた挑戦を促しました。クラークは植物学の講義を担当したほか、課外では聖書講読も行ないました。在任は8ヶ月という短期間でしたが、カリキュラム編成・附属農場設置・図書館整備などの学校運営面に加え、学生の信条にも大きな影響を及ぼしました。佐藤昌介は、19歳の1876年、第1期生として札幌農学校に入学し、クラークと出会います。



W. S. Clark (沿革写真帖より)

II. 札幌農学校第1期生として

岩手県花巻出身の佐藤昌介は、東京英語学校（現東京大学）在学中に、新設の札幌農学校教頭に就任した W.S.クラークらのスカウトに応じて札幌農学校に入学しました。クラークの直接の教え子は佐藤ら第1期生のみです。札幌農学校の教員はアメリカ人であったため、農学・植物学・化学・数学・工学・物理学といった講義はすべて英語でした。農学校生たちは当時、最先端の西洋科学を英語で学びました。また、クラークの提案で課外に聖書講読や弁論術を研く集会「開識社」を開催しました。在学中の佐藤は、第1期生の中でも年長で、成績優秀であったこともあり、リーダーといった存在でした。

Ⅲ. 農業経済学の教授として

佐藤昌介は卒業後、アメリカのジョンズ・ホプキンス大学で歴史学・経済学等を学んだ後、1886年、札幌農学校教授に就任しました。農業経済学を専攻した佐藤は、「大農論」などの論文を発表し北海道「開拓」のあり方を論じました。農学校の講義では、「殖民学」を日本で最初に講じたほか、「農業経済学」、「農政学」、「殖民史」、「農業史」、「水産学」、「山林学」、「英語」などの講義も担当しました。佐藤の門下からは、北大第3代総長となる高岡熊雄、東京文化学園（現新渡戸文化学園）を創立した森本厚吉、白樺派を代表する作家有島武郎、北大教授を務めた中島九郎らを輩出しました。



札幌農学校第19期生卒業記念（1901年7月）

（星野勇三関係資料より）

Ⅳ. 校長・学長・総長として

佐藤昌介は1891年に札幌農学校校長心得に就任して以降、校長・学長・総長として、40年間に渡って北大を牽引し続けました。農学校長在任時には、新渡戸稲造・宮部金吾・南鷹次郎ら農学校卒業生を中心とした教授陣を編成し、幾度か訪れた札幌農学校廃校の危機には政府要路を説き伏せて回避しました。1908年に東北帝国大学農科大学として大学への昇格を実現し、1918年には北海道帝国大学としての独立を果たしました。佐藤が総長を退任する1930年までに、北大は農・医・工・理学部を擁する理系総合大学へと拡充しました。佐藤を「北大の父」と称する所以です。

V. 佐藤昌介アラカルト

佐藤昌介は、同僚も学生も一言の内に震え上がらせるほどの厳格な人物でしたが、非常に尊敬も集めていました。そして、女子教育機関の創設に関わったり、制度的に想定されていなかった帝国大学への女性の入学を支持して実現するなど、女性が学問を学ぶことに深い理解を示しました。また、札幌農学校入学前からメソジスト教会に出入りし、在学中に受洗した後は、終生、教会通いを欠かしませんでした。信仰について声高に語ることはほとんどありませんでしたが、佐藤には敬虔なクリスチャンという一面もありました。このコーナーでは、そんな佐藤昌介の人柄を示す資料を展示します。



佐藤昌介旧蔵の『讚美歌』
(1899年)

(沿革資料より)

【表紙解説】

有島生馬「佐藤昌介博士」(1912年、油彩画)

肖像画は、1912(大正元)年4月3日、「佐藤博士就職二十五年記念祝賀会」より、佐藤昌介(当時、東北帝国大学農科大学長)に贈呈された油彩画(キャンバス・木彫額)です。油彩画の作者は、白樺派を代表する洋画家の有島生馬(壬生馬)です。

制作にあたって、有島生馬は、佐藤昌介の肖像写真と制作依頼の書簡を、兄である有島武郎(当時、大学予科教授)から受け取っています。その書簡には、「彼れは全く妥協のみの人にあらず其の奥には一個の主張あり…平常寡言なれども一度破顔寛話すれば一派の春風を呼び来るに足る」と、有島武郎の眼から見た佐藤昌介が表されていました。

(『有島武郎全集』第13巻、筑摩書房、1984年、250～251ページを参照)

(佐藤ユリ氏寄贈資料)

ほっかいどうだいがくだいがくぶんしょかん

北海道大学大学文書館

〒060-0808 札幌市北区北8条西8丁目

〈TEL/FAX〉 011-706-2395

〈E-mail〉 archives@general.hokudai.ac.jp

〈URL〉 http://www.hokudai.ac.jp/bunsyo/

〈開館日時〉 月曜日～金曜日 9:30～16:30 (祝日、年末年始を除く)